

中村 伝 氏 (1)

ふるさとのために巨額の資金を寄付

1878年（明治11年）に、大原で生まれた中村伝氏は、八名高等小学校を卒業後、医者をめざし、有名な医師について勉強をしました。1900年（明治33年）に、京都で病院を開き、豊かな財産を築きました。また、故郷の大原に住む父親思いの優しく温厚な人がらで、だれからも慕われました。



大原の川は、田畑より低いところを流れており、農作物を作るのに水が足りなくなることが多く困っていました。川谷上池と川谷下池というため池がありましたが、米を作るには、もっとたくさんの水が必要でした。

1930年（昭和5年）、中村伝は莫大な工事費用を用意し、水不足の解消のため地域の住民と協力して大きなため池を作ることにしました。また、現金収入が少なかった時代で、池造りの日当としてお金をもらえたことは二重の喜びでした。こうして、4か月をかけて水をためておく堤防（長さ130メートル・幅3・3メートル）を作りました。ここに水を貯め「めぐみの池」と名づけました。この豊かな水のおかげで、秋には見事な米が実るようになりました。

感謝の気持ちとして、人々は毎年、収穫したもち米を京都の中村伝氏に送りました。また、「大原音頭」（盆踊り）の中で、「三つの池より 流れ来る 恵みの池の うるおいで 実る稲穂も 黄金色」と歌われました。現在、めぐみの池は、大原調整池となりましたが、その時の記念の碑が、大原調整池（五葉湖）のほとりに建っています。



めぐみ池竣工記念式
昭和6年4月27日

富岡小学校には、奉安殿を建てました。当時、めずらしかったピアノも寄贈しました。大切なピアノだったので、鍵がかけられ、音楽の先生しか弾くことができなかつたそうです。記録によると、富岡小学校教育基本資金として、国債券1000円の寄付もしました。

富岡の人たちはこのような寄付に感謝し、1931年（昭和6年）中村伝の銅像を建ましたが、1942年（昭和17年）12月に、戦争の物資として軍へ供出され、現在は残っていません。

京都で暮らしながらも、ふるさとの発展のためにたくさんの寄付したことが認められ、紺綬褒章が贈られました。

中村 伝 氏 (2)

富岡尋常高等小學校 学区出身模範者

昭和4年9月、富岡尋常高等小學校「学区出身模範者」として中村伝氏に取りあげられています。概要は以下の通りです。

中村 伝君 小傳 (伝) 昭和4年9月

明治11年11月8日、富岡大原で父、伝吉の二男として生まれる。長男は日露戦争に従軍、妹は他家に嫁ぐ。

明治25年富岡尋常小卒業、八名郡立高等小學校(八名高)入学、明治29年3月卒業。学童時代は勉学に励み、家業の手伝いをして父母に喜ばれた。29年5月、意を決し刈谷の医師宍戸先生の書生となり、3年間苦学する。明治31年秋、京都の名医木村先生に師事する。明治37年5月、難関の^{ししど}実地試験に合格し開業医の資格を得る。7月に京都で内科、産科、婦人科を開業し、その^{れいわん}靈腕と厚情の人柄で好評を博し、繁栄した。

得られた財は、博愛の精神で寄付行為の善行に尽くした。巨額の財を郷里だけでなく、京都の神社仏閣に^{けんのう}献納した。富岡小學校へ教育基本資金として国債券千円を寄贈。

昭和3年京都市美術館建設に1万円を寄付。

その功労を賞し、^{こんじゆほうしょう}紺綬褒章を授与された。このように^{びきよまいきよ}美挙^{いとま}枚挙に遑あらず。

また、八名小20周年記念誌などには次のように記されています。

- ・昭和4年 富岡小へ教育基本資金として^{こくさいけん}国債券1,000円を寄付。
- ・奉安殿 昭和5年7月1日 御真影奉安殿建設のために1,200円を寄付
- ・恵之池 昭和5年12月20日起工 昭和6年4月27日竣工
恵之池の開発事業に莫大な資金を寄付。

大原は、毎年干ばつに悩まされたが、この池の竣工で1,700㎡あまりの田を潤し、良質な米がとれるようになりました。

労働賃金は、役職者が1円弱、一般作業員は80銭から90銭未満だったそうです。水の恩恵を受ける農家は、1反あたりもち米1合を出し合い、年末に伝氏に送っていました。この旧三ツの池のおかげで、現調整地の30%の水利権を得ることができました。このご恩は、決して忘れてはならないと思います。

- ・昭和6年4月27日 富岡小で中村伝翁の像、^{しょうとくひ}頌徳碑除幕式が行われた。
- ・昭和6年 富岡小學校へ講堂の建設資金とピアノ購入費を寄付。
- ・昭和8年 講堂新築落成した。
常に郷里への^{しょうけい}憧憬と、後進の育成に意を尽くした。

<案内板原稿>

中村 ^{つたえ} 伝氏 寄贈の講堂

この木造倉庫は、中村伝氏の寄付金により昭和8年（1933）に富岡小学校の講堂として建設されたものです。

中村伝氏は、明治11年（1878）富岡^{おおぼら}字大原生まれ、八名高等小学校を卒業後、医者をめざし有名な医師について勉強をしました。明治33年（1900）に京都で開業すると、高い技術と優しく誠実な人柄で好評を博し、^{はんえい}繁栄しました。伝氏は、得られた財を博愛の精神で寄付行為の善行に尽しました。

- ・昭和4年 富岡小へ教育基本資金として^{こくさいけん}国債券1,000円を寄付。
- ・昭和5年 ^{ごしんえいほうあんでん}御真影奉安殿建設のために1,200円を寄付
- ・昭和5～6年 ^{めぐみのいけ}恵之池開発事業（^{ちようせいち}大原調整池の^{いしずえ}礎）に莫大な費用を寄付。
- ・昭和6年 富岡小学校へ講堂の建設資金とピアノ購入費を寄付。
- ・昭和8年 講堂新築落成した。

中村伝氏は、ふるさとのために巨額の私財を寄付されたのです。

※ 昭和5年当時のお金は、およそ1円が1万円という推定があります。